



# 水利權放棄！正義は勝てり

## 狂喜した平全町民より擧げらるる萬歳の熱叫

### 焼スルメを肴に祝宴賑ふ

足袋ハダシの町長を胴上げし  
熱狂漢は涙の所感演説を試む  
昨夜の同盟會  
事務所

連日連夜健闘絶え間なかつた大瀧發電所反對の運動は遂に天に通じて出福中であつた小田吉次、大森勇、中野甲藏三氏の名を以つてした『スイリケンホウキセンメタ』の電報は、平町各方面に到着して狂喜せんばかりな全町民から擧げらるる萬歳の聲は天をもゆるがさんを示した是れより先き福島への電話照會に依つて栗原平電氣專務が香坂知事の勸告に基き發電所設置計劃を斷念して水利權を放棄した次第を知つた大瀧發電所許可反對

### 同行委員

煙火轟いて  
歓迎の煙火冲天に轟き小田炭礦社長と同行して出福した、反對同盟會の大森勇、木長三郎、馬目武之助、三森虎雄の四氏及び小田炭礦重役中野甲藏氏町會議員星野清吉氏は本日午後三時卅分平驛に到着し驛頭には出迎の山を以て山を築いた

### 知事の鮮やかな手腕

遂に難問題解決  
香坂知事は昨日小田炭礦社長小田吉次氏、平電氣專務栗原欣次郎の兩氏を縣廳に招き出願書類に不備の点ありしを指摘大瀧發電所水利權放棄を迫り一方小田炭礦

### 近頃流行の病氣

きのふまでなんともなかつた鶏が今朝はもう死んでしまつたとか、ごうも大規模の養鶏事業は成功しないなごうはよくいわれて居るようですがこれは家禽にも人間と同じ様に恐ろしい傳染病や寄生虫病があるからです、家さんの傳染病で最も恐ろしいのは家さんコレラ、家さんチフテリアでかつて北海道ではコレラのために極めて短期間に一萬羽もの鶏が死んだなどいふこともありますコレラは恐ろしい傳染力を以てゐるもので大養鶏場に

重役の資格にて同行せる中野甲藏氏此間を斡旋せる結果漸く水利權放棄の決意を抱くに至り兩三日中に其手續きを運ぶ等であるから是れに依つて始めて平町未曾有の大問題は解決を告げる

### 伊坂町長引責辭退

本日委員等の善後策協議多數町民は留任を希望す  
伊坂町長は今回の大瀧發電所問題に關し引責辭職すべき意圖を二三の町會議員に洩らした爲め本日午後一時から役場内に水道委員參集し善後策の協議を遂げたが右に關し某識者は今回の問題は縣當局が平町を無視して不當の許可を與へた爲め由々敷き事態を惹起したものであつて此間に處して伊坂町長としては別段に怠慢であつたと云ふが如き点を認むる事が出来なから町民の總ては留任を希望す

### 朝鮮人

總計百十九名  
石城郡内二十有餘の各炭礦に現住する朝鮮人の労働者數は總計百十九人であるが内地人を妻とするもの十三名他は悉く獨身である年齢は四十三が最年長で年少が二十歳最も多いのは三十七八歳から四十歳位のもので一日労働賃銀八十錢から四

### カテイラン

普通のバケツは亜鉛メッキの鐵板製であるが、この鐵と亜鉛とが一緒に水流に接すると、電氣作用がおこつて、亜鉛が鐵の代りに侵され鐵さびは出ぬけれども亜鉛がだんだんと溶けるものである、それ故バケツに水

### バケツとブリキ

をためておく、あえんがどけるのが普通である、世間では、バケツを貯水器にしておくのがあつたけれどもあれは甚だよくない事である、ただ水を運ぶだけならばバケツはよいものであるが、自來水をためておく、自然にバケツは腐るのである故にバケツはいつでも使つたらすぐ伏せて乾かすやうにする、殊に飲み水はバケ

永戸役場新築 石城郡永戸賃輪組合村新築落成式は昨日午前九時から舉行する

### 善一美

救を女幼 數日前の事であるが新川町裏の川中に七歳位の女の子が轉落して約卅間程流された時宮炭礦へ酒運搬の途中であつた大浦村酒造業木村榮次郎方雇人西澤某と稱する若者が危急を知つて着物の儘で河中に飛び込み無事に幼女を救ふ事が出来た

### 平町人事

死 亡  
△才地小路 綠川正(七)  
△三丁目 渡邊義衛(八)

### 募集

文藝其他一般投稿を募集します

圓位迄ある而して一般に貯蓄心がなく各地を轉々して稀には一ヶ所に八年も働いたといふようなものもあるが短いものになると一ヶ月足らず位なのが少くない之れ等の労働者に對しては會社側でも相當待遇して居るが平署でも温情的に之等に接觸する方針である

### 五年制計劃

櫻井校長語る  
磐城高女校では學年を延長し五年とする計劃中で各方面に調査の歩をすすめてゐるが櫻井校長は語る『卒業生も父兄も現在の高女教育では満足できないが上級に入るは別として實生活に入らんとするものは遺憾の点が多く殊に卒業年齢から見て直ちに嫁入りさせるにも不安があらう高女四年間の修養は一家の主婦となるには貧弱すぎるので學年を延長してその缺陷を補ふやうにしたのである假りに一年間延長し五年制にしても女子の結婚期を誤るやうな事はない』

### ヒロイモノ

石城郡神谷村吉田治重氏は三日平町二丁目大村屋旅館前にて郵便爲替十五圓券一枚▽平町鎌田町小野吉十氏は同日三丁目にて萬年筆一本▽平町丸合運送店國井國司氏は四日長橋町にて貯金通帳一通を夫々拾得し此程平署に告訴した